

# 京都ジュニアカップ適用ルール（男子）

1. 大会クラスを5級から10級に分類し、選手一人につき1つのクラスにエントリーできるものとする。
2. 全クラス、年齢制限は無しとする。
3. 6級の表彰に関しては、年齢・参加人数に応じて2部門に分ける可能性がある。  
但し、開催年によって参加人数に変動があるため参加エントリー終了後、年齢区分を検討し、抽選会後に発表するものとする。（例：4年生以下、5年生以上）

## <5級・6級採点詳細>

<b>【全種目】</b>	技 点	4. 8	<b>【加 点】</b>	・ 綺麗な演技
	実 施	4. 5		・ 卓越した演技
	加 点	0. 7		・ リズム感・安定感
	合 計	10. 00		・ 姿勢・完成度 など

## 5 級

ゆ か <対角線の往復で演技を行う>

### 1 コース（配点 1. 0）

助走～側転2回連続（各0. 5）

### 2 コース（配点 3. 0）

倒立前転～前転左右開脚座胸つけ－両足を後ろで揃えて正面支持－腰を上げ両足立ち  
（0. 5）（0. 5）

－ツーステップ～リープジャンプ－足を揃えてから後転－正面水平（2秒静止）  
（0. 5） （0. 5） （0. 5） （0. 5）

### 3 コース（配点 0. 8）

助走～ロンダートジャンプ もしくは 転回  
（0. 8）

跳び箱 <横向き5段> 3助走2演技

### 開脚跳び（4. 8）

鉄 棒 <高さ マット上200cm>

### （配点 4. 8）

懸垂逆上がり～前方支持回転～後方支持回転～足裏支持回転降り  
（1. 2） （1. 2） （1. 2） （1. 2）

※ 補助可 <但し減点有り>

**6級**

<ゆか・鉄棒の同一難度の繰り返しは2回まで認めるものとする。

A 難度のみ（難度表にない技にも A の価値を与える）で構成>

## ゆ か

◎A 難度6技で構成 1技につき0.6

$$0.6 \times 6 \quad (\text{配点 } 3.6)$$

◎要求 0.3 × 4 (配点 1.2)

1. 前方系 2.後方系 3.柔軟 4.倒立  
(1・2に関して、前転・後転でも補える)

◎演技時間 70秒

## あん馬

◎円馬 6周

$$0.8 \times 6\text{周} = 4.8$$

跳馬 <高さ100cm 中型跳び箱縦>

◎3助走2演技 点数の良い方を決定点とする。

◎跳躍技は下記から選択

台上前転 3.5 開脚・閉脚跳び 3.8 転回とび 4.8

鉄棒 <高さ マット上200cm>

◎A 難度6技で構成 1技につき0.6

$$0.6 \times 6 \quad (\text{配点 } 3.6)$$

◎要求 0.3 × 4 (配点 1.2)

1. 前方系 2.後方系 3.鉄棒に近い技 4.終末技  
(1・2に関して、前方・後方支持回転でも補える)

7級 府民総体採点規則

8級 近畿ジュニアCクラス規則

9級 近畿ジュニアBクラス規則

10級 近畿ジュニアAクラス規則

このルールは2024年4月1日から適用し、京都ジュニアカップの主催する大会のみ適用とする。

## 京都ジュニアカップ適用ルール（女子）

- 1, 大会の級を5級から10級にわけ、選手はこのうちの1つのクラスにエントリーできる。
- 2, 級は年齢に関与せず参加できる。
- 3, 6級の表彰については年齢、参加者数に応じて2部門に分けることがある。  
開催年によって参加者数に変動があるためエントリー終了後、年齢の区切り方を検討し、抽選会後に発表する。  
(例 4年生以下、5年生以上)
- 4, 各級のルール及び出場の日安は下記の通りとする。

### 5 級

段違い平行棒・平均台・ゆかの同一技は2回まで承認する。  
 難度表にないものはすべてA難度とみる。  
 構成はA難度のみとし、宙返りは禁止とする。  
 20cm着地マット使用可。(ゆかは不可)  
 採点は10.00から行う。(実施減点・要求減点)

跳び箱 中型 4段から6段	2回の跳躍を実施し、よい方のスコアを有効点とする。			減点項目 落下 0.5 姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで 大きさ 0.1 / 0.2 / 0.3 スピード 0.1 / 0.2 / 0.3
		転回	横向き	10.00
		倒立前転	縦向き	9.50
		台上前転	縦向き	9.00
		開脚跳び	横向き	8.50
段違い 平行棒	低棒のみ使用			減点項目 落下 0.5 姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで 大きさ 0.1 / 0.2 / 0.3
	要求 各0.3 × 5個	逆上がり 後ろ回り 前回り フット下り 2つの異なる連続技		
平均台 高さ 110cm	演技時間1分以内・台下に20cmマットを使用可			減点項目 落下 0.5 姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで 流れ(全体) 0.1 / 0.2 / 0.3 タイム 0.1
	要求 各0.3 × 5個	バランス 前転 180度ターン(片足) ジャンプ(抱え込み・伸身) 終末技(ロンダート・転回)		
ゆか 方向あり	演技時間1分以内 曲あり・なしどちらでも可			減点項目 転倒 0.5 姿勢欠点(膝・つま先・肘・着地・ポーズ(始・終)) 0.05~0.30まで 流れ(全体) 0.1 / 0.2 / 0.3 タイム 0.1
	要求 各0.3 × 5個	360度ジャンプターン 側転 倒立前転 ブリッチ技 アクロバット技(他と兼ねてもよい)		

### 6 級

段違い平行棒、平均台、ゆかの同一技は2回まで承認する。  
 構成はA難度のみとする。  
 その他については2022年版採点規則(変更II)に準ずる。  
 平均台・ゆかについて、変更IIで認められている要素はCRとして認められる。

中型 跳び箱	高さ 100cm (横)	段違い平行棒	器具：高さ 高棒255cm 低棒175cm						
	(1) 2回の跳躍を実施し、よい方のスコアを有効点とする (2) 2.00ポイントまでの跳躍技に限る (3) 難度表にない技については次の通りとする		(1) 難度点 終末技を含む5要素以上、最大8要素まで数える (2) CR 全ての選手に2.00を与える (3) 短い演技 4要素以下の場合のEスコアの最高点 4要素：6.00 3要素：5.00 2要素：4.00 1要素：3.00 (4) 逆上がり・フット下りは1要素として認める						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 30%;">跳躍技</th> <th style="width: 35%;">Dスコア</th> <th style="width: 35%;">Eスコア</th> </tr> <tr> <td>台上前転</td> <td style="text-align: center;">1.00</td> <td style="text-align: center;">5.00からの減点</td> </tr> </table>	跳躍技	Dスコア	Eスコア	台上前転	1.00	5.00からの減点		
跳躍技	Dスコア	Eスコア							
台上前転	1.00	5.00からの減点							
平均台	器具：高さ 125cm 台下に20cmマットを使用 20cm・10cm着地マットを使用可(2枚重ね可)	ゆか							
	(1) 演技時間 1分30秒以内 (2) 難度点 終末技を含む5要素以上、最大8要素まで数える (3) CR 難度表にある要素には0.5 難度表にない要素には0.3を与える ① 難度表にあるリープ・ジャンプ・ポップの要素を1つ(伸身・かかこみ可) ② 片足上のターン(180度以上) ③ 前方/側方のアクロバット系要素(前転可) ④ 後方のアクロバット系要素(後転可)		(1) 演技時間 1分30秒以内 (2) 難度点 終末技を含む5要素以上、最大8要素まで数える (3) CR ① 前後/左右開脚または開脚屈身姿勢を伴う跳躍技 ② 片足上のターン(360度以上) ③ 前方/側方のアクロバット要素(前方倒立回転・側転可) ④ 後方のアクロバット要素(後方倒立回転可)						

### 7 級

府民総体規則(小学生普及クラスルール)を適用する。

### 8 級

近畿ジュニアCクラス規則(近畿変更規則)を適用する。 近畿JrCクラスレベル

### 9 級

日本体操協会2022年版採点規則(変更規則II)を適用する。 近畿JrBクラスレベル

### 10 級

日本体操協会2022年版採点規則(変更規則I)を適用する。 近畿JrAクラスレベル